

インターネット放送局特別企画 市長×教育長対談

未来を担う子どもたちのために ～海老名市の教育～



写真左から伊藤教育長、内野市長、砂川ちえこ（インタビュアー）

4月。進級・進学の時節は、子どもたちにとっても新たな門出となります。「えびなっ子」たちが、充実した学校生活を送るためには、市と教育委員会の連携は不可欠なものです。

安全対策としての通学路視察

砂川：先日、市長・教育長自ら交通安全対策として通学路を現地視察されましたが、視察した結果はいかがでしたか？

市長：危ない所も多くあったし、自分の出身校でもある有鹿小の近辺は、昔と変わっていない部分もありました。道路際に家が建っているため、道路を拡幅し児童や歩行者の安全を確保するには時間がかかる。行政として何ができるかということを感じました。

教育長：市長と一緒に視察をしてくれるのはありがたいことだと思います。その場で指示を出してくれるので、いい解決策が見つかるのではないかと期待しています。



視察の様子

教育委員会の今後の教育方針

砂川：伊藤教育長は、昨年10月に教育長に就任され、約半年が経ちました。今後の教育方針について、どのようなことを考えていますか？

教育長：市教育委員会では、教育理念を「ひびきあう教育」と定めて進めてきています。

私は以前、12年間教育委員会に在籍した後、中学の校長として学校に戻りました。子どもたちの頑張っている姿に接して、学校や我々は子どもたちのために何ができるんだろうかとよく考えました。私は、将来子どもたちに幸せになつて欲しいと思つていて、そのための力、例えば、ゲームで言えばアイテムのようなものをきちんと身に付けさせ、卒業させることが学校の役割ではないかと考えています。

そこで、「ひびきあう教育」の理念を具現化するために、新たな教育ビジョンとし「えびなっ子しあわせプラン」を策定しました。

プランの柱として3点を上げています。まずは学力。社会に出ていく中で、基礎的な学力は不可欠なものです。そして、集団力。みんなと仲良くする力、人のために役立つ力を学校はきちんと身に付けさせる。それから、今は災害などが増えています。健康で安全に暮らせる力、自分で自分の命を守る力を持つ。これらの力を身に付けて卒業させることを学校の

ひとつの役目として、今後もしっかり組んでいきたいと思つています。

学校施設の改善

砂川：学校ではこれまで、トイレ改修や空調機導入など、ハード面での改善も行われていますが、今後の学校施設の充実についてお話しください。

市長：学校運営を行っていく中で学校に必要なものは何なのか。学校の要望全てをかなえていくことはできないかもしれないけれど、行政側も予算配分などに配慮し、しっかりフォローしなければと思つています。

ハード面では、校舎内のトイレ改修が全部終わったので、今年度からは体育館のトイレ改修を始めます。

また、市は現在、公共施設の再



温水洗浄便座の設置は県内初

配置計画の基礎となる、公共施設白書の策定作業を進めています。

これらの作業を進める中で、体育館の冷暖房設備などにも着手しようと思つています。

今、市内には小学校13校、中学校6校があります。10年後、20年後、子どもの数は減っていく。これからの見直しも含めた形で、改修計画も作っていきたくと思つています。

教育長：児童・生徒の安全安心のために、今年度は防犯対策として19校全てに防犯カメラをつけ、安全・安心な学校づくりを進めたいと思つています。

未来を担う子どもたちのために、各種の取り組みを行っています

26年度に行う主な取り組み

コンピューター利用教育の推進

児童・生徒が積極的にコンピューターなどを活用できるようにするための資質や基礎的能力を培うため、電子黒板、電子教科書などの充実を図ります。

インターネット放送局で配信中

対談の様を、4月1日(火)からインターネット放送局「市長シティセールス」内で配信します。皆さん、ぜひご覧ください。

海老名市インターネット放送局



電子黒板を操作する児童たち

(仮称)教育支援センターの開設

児童・生徒・保護者に向けた、総合的な支援を行うため、(仮称)海老名市教育支援センターを開所(平成27年1月予定)します。

野外教育活動の充実

「海老名市野外教育活動アクションプラン」をもとに、野外活動専門職員の配置や野外教育活動経費を助成、学校と保護者に対し、支援を大幅に拡充します。